



大きく手を振り堂々と入場行進をする有田工業高校の選手たち



市庁舎に掲げられた懸垂幕

特集

第95回全国高校野球選手権大会

甲子園にかける夏

～伊西地区初の甲子園1勝～

8月8日、第95回全国高校野球選手権大会が阪神甲子園球場（西宮市）で開幕しました。伊西地区からの夏の甲子園出場は、第91回大会の伊万里農林高校に次いで2校目となる有田工業高校が、創部114年目にして初出場を果たしました。伊西地区から初の甲子園での1勝が期待される中、開幕初日第一試合では、大垣日大高校（岐阜県）を5対4で破り、見事1勝を勝ち取りました。続く2回戦は、14日の第3試合、常葉菊川高校（静岡県）との対戦。先制を許し、中盤詰め寄ったものの、相手投手を捉えられず3対5で惜しくも敗れました。バス40台で駆けつけた約4000人の応援団からは、粘り強いプレーを見せた選手たちへ大きな拍手が送られていました。



大垣日大戦

148km/hの速球で最後の打者を見逃し三振に切って取ったときの古川投手

有田工業高校野球部
～伊万里出身者の紹介～

背番号	選手名	学年	出身中学
2	草野 善彦	3	国見
3	川元 空	3	国見
4	百武将太郎	3	東陵
5	桑原 耕生	3	山代
7	岸川 侑生	3	国見
9	仙波 康弥	3	山代
12	原 潤也	2	伊万里
17	野村 将希	3	啓成

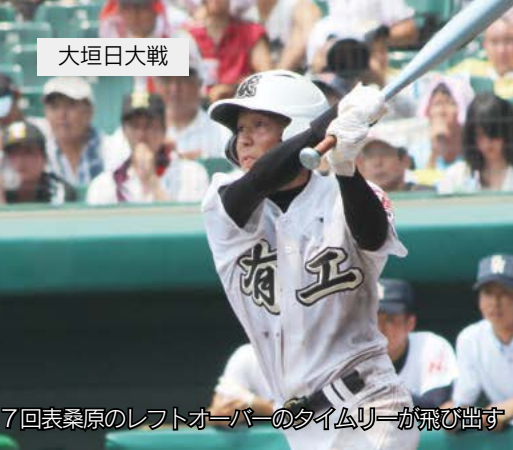


1勝し、喜びを胸に有田工業高校校歌を歌う選手たち



試合直前気合いを入れる選手たち

大垣日大戦



7回表桑原のレフトオーバーのタイムリーが飛び出す

大垣日大戦



8回表逆転のホームを踏み喜ぶ古川と桑原

大垣日大戦



8回表仙波の逆転タイムリーツーベース

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	H	E
常葉菊川	0	3	0	2	0	0	0	0	5	9	0	
有田工	0	0	1	2	0	0	0	0	3	6	0	



常葉菊川戦

4回裏追い上げの口火を切る古川の3塁打



常葉菊川戦

4回裏2点差に詰め寄った川元のスクイズ



常葉菊川戦



8回表見事なダブルプレイが決まる

大垣日大戦



タッチをかくぐり仙波が決死のホームイン。結果的にこの1点が決勝点となった

伊西地区初の甲子園1勝

～夏の甲子園大会を終えて～



桑原耕生主将

甲子園という最高の舞台でプレーすることができました。思ったよりメンバーも緊張することなく、楽しく、いつも通りの全員野球ができました。チームワークもばっちり、皆さんの応援もたくさんいただき、精一杯プレーすることができました。応援ありがとうございました。



うえまつこうじ
植松幸嗣監督

甲子園という夢の大舞台で、しかも開幕戦で試合ができたことは大変幸せだったと思います。特に2回戦では4万7千人という大勢の観客が見守る中で試合ができたことも貴重な体験となりました。アルプス席には有田・伊万里地区から4千人もの応援をいただき、皆さんの声援のおかげで2試合とも粘ることができました。ありがとうございました。



アルプス席を埋め尽くし熱い声援を送る大応援団



勝利が決まった瞬間大喜びするアルプス席



こしまかずひろ
小島一博監督

私たちのチームは、『社会で生き抜いていく人材になる』ことを目的とし、『甲子園で勝つチームになる』ことを目標として、この2本を柱として活動しています。活動状況としては、新チームで22人というこの地区でも最少人数のチームではありますが、前向きな子どもたちが多く、お互いが助け合いながら、日々精進しています。有田工業高校がこの伊西地区のチームでも全国で戦えることを証明してくれました。このことを励みに、2006年以來の甲子園出場をめざし、また、悲願の選手権出場を果たすべく、『不可能を可能にする』という伝統を受け継ぎ、応援してくださっている方々の期待を胸に、妥協することなく努力を重ねたいと思います。

伊万里商業高校

今年の目標は、すべての県大会で最低でもベスト8以上に残り、優勝をめざします。そして、夏の大会で甲子園出場を果たしたいと思います。今年は、有田工業高校が甲子園に出場しました。同地区からの出場は、とても嬉しく励みになりました。その一方で、来年こそは、甲子園出場を果たしたいという思いもさらに強くなりました。私たちは、部員数も少ないですが、練習の質にこだわり、一日一日を精進していけば、目標は叶うと思っていますので、頑張っていけます。



まえだともや
前田朋也主将
(南波多中出身)



まえだゆきひろ
前田征宏監督

本校野球部は『甲子園1勝』を目標として掲げ、その目標達成に向けた私たちの全力プレーが、日々応援してくださる方々に対して感動を与えられるように、野球に取り組んでいます。平成27年には本校も創立100周年を迎えます。100年という長い歴史の中で伝統を築いてこられた先輩方や、今まで温かく見守っていただいた地域の方々に元気と感動を与えるため、伊西地区から甲子園出場を果たした3校に続いて、是非とも本校野球部の『目的』『目標』達成を果たしたいと思います。

伊万里高校

新チームになって活動を始めて、まだまだチームとしてまとまってはいませんが、今年の夏の大会のベンチ入りメンバーを中心に、チームが掲げた目標に向かって、日々の練習を一人ひとりが高い意識で取り組んでいます。チームの特色としては、打撃へのこだわりが強い選手が多く、打つ方から試合の流れ、チームの雰囲気盛り上げています。これからは守備に課題を置き、1試合3点以内に抑えることを守備の目標にして、自分たちの野球を作り上げていきたいと思っています。



なかしまゆうき
中島優生主将
(西有田中出身)

伊西地区高校の野球・甲子園にかける熱い思い

高校野球の注目度は、国内スポーツの中で上位にランクされています。特に夏の甲子園大会は日本の文化と言っても過言ではないと思います。そんな高校野球に携わらせていただいていることに感謝しながら毎日を過ごしています。野球をしていると、つらい練習や結果がでない苦しみなどさまざまな問題に直面しますが、そんなときに心の支えになるのが仲間们的存在です。もちろん、野球を通しての人間形成を念頭におきながら、3年間ともに過ごした仲間の大切さ、感謝する心を学んでもらいたいと思います。新チームは、もう一度基本を見直し、特にキャッチボールと体力面を強化し、試合終盤に粘り強いチームにしていければと思っています。



ならはらよういちろう
橋原洋一郎監督

敬徳高校

※8月20日現在、主将が決まっておらず、代表2人からのコメントです。夏の甲子園県大会で敗れ、同じ伊西地区の有田工業高校が甲子園出場を果たしました。いつも同じ地区で戦っていただけに、応援する気持ちと同時に、自分たちも夢の舞台で戦ってみたいという気持ちが一層強くなりました。そのためには、チーム全体の守備力を高めるとともに、確実に決めるバント、スクイズなど、攻撃面においても他校と競り勝つための技術を磨いていかなければと思います。チームが新しくなり、心機一転甲子園1勝に向けて頑張ります。

夏の大会では、温かいご声援をいただき、ありがとうございました。昨年度は準優勝、今年度はベスト4と選手、チームは着実に力をつけてきています。同時に、新チームは、『もう一歩、あとひとつ』の悔しい思いもしています。その思いを胸に、より一層、努力をしていこうと決心しています。皆さんにハツラツとしたプレーを観てもらえるよう、そして、この伊万里の地から球児たちの聖地に羽ばたけるよう頑張ります。ご声援、どうぞよろしくお願いいたします。



すきはらしゅうへい
杉原周平監督

伊万里農林高校



はしもとたくや
橋本拓也主将
(福島中出身)

私たち野球部は、杉原監督をはじめ、3人の指導者のもと、日々、効率的かつ効果的な練習に取り組んでいます。農林高校には『質の高い練習を数多くできる環境』が整っています。杉原監督が就任されてから、練習開始前に『環境整備の時間』が組み込まれています。選手が自ら気づいたことを積極的にチームのため、環境を整えるために行います。技術、体力はもちろん、高校野球を通じて、こころの成長を大きくしようと心掛けています。昨年度、今年度のあとひとつの悔しい思いを忘れず、このチームで必ず甲子園にいきたいと思います。

伊万里中学校 ～九州大会を終えて～

7月6日の地区大会から、九州大会出場までの1ヶ月間、生徒たちとともに試合ができたことにとても感謝しています。これまでは、ピッチャーを中心に守りからリズムを作り、攻撃に生かせるチーム作りをしてきましたが、今年はさらに打撃力を強化するための練習に取り組みました。また、一つのプレー、一球の怖さで流れが変わることを常に頭におき、一球入魂の精神で試合に臨み、その成果が結果につながったと思います。心温まるご支援をいただき誠にありがとうございました。



いけだ たけお
池田丈夫監督

【主将 ^{いけだ こうせい} 池田昂世（3年）】8月6日から10日まで沖縄県で開催された九州大会に佐賀県代表として出場しました。県1位としての自覚を持って臨みましたが、他県からも1位、2位が集まり、とてもレベルの高い大会になりました。ぼくたちは、熊本県2位の市立合志中学校と対戦し、一生懸命声を出し、全力プレーで頑張りましたが、0対5で完敗しました。過去、佐賀県は、ほぼ3位以内に入っており、1回戦で負けたことは、とても悔しく残念です。同時に、九州大会の厳しさを知りました。この経験を生かし、高校で頑張りたいと思います。また、後輩たちには来年また九州大会に行ってもらいたいです。



県中体連で優勝し、九州大会に出場した伊中野球部
高校での活躍に期待がかかる（前列中央 池田主将）

チーム甲子園企画第1弾 『伊万里市野球講演会』 を開催しました

8月17日、市民センターで理学療法士の小松智さん（小城市・鶴田整形外科）を講師に迎え、『成長期に合わせたトレーニング指導のあり方』と題して野球講演会がありました。これは、市の少年・中学野球のレベルアップを図るため、5月に発足した市軟式野球連盟や市少年野球連盟など9団体で構成する『目指せ！甲子園』プロジェクトチーム（通称『チーム甲子園』）の取り組みとして初めて開催されたものです。この日は、野球の指導者や生徒など多くの参加がありました。

講演会では、子どもの成長期における骨の成長に特に気をつけて指導しなければいけないことや、成長期には多くのスポーツに触れさせることが大切であること、また、野球を通じて強い心を作ることなど忘れてはいけないことなどについて話がありました。参加者は、メモを取るなどしながら、熱心に聞き入っていました。



講演する小松智さん

伊万里地区から甲子園出場 常連地区をめざして

市では、伊万里地区高校の甲子園出場をサポートしていくため、4月に『甲子園プロジェクト係』を設置しました。高校野球の競技力の向上をめざし、県外の高校野球強豪校と行う強化試合への支援のほか、5月に『目指せ！甲子園』プロジェクトチーム（通称『チーム甲子園』）を立ち上げ、将来の高校球児となる少年・中学野球のレベルアップにも市民挙げて取り組むこととしています。このような中、伊万里地区から甲子園に出場した有田工業高校の、仲間を信じて最後まで勝利をあきらめないひたむきなプレーは、市民の皆さんに大きな感動や夢、また、地域への誇りや元気を与えてくれました。今後、伊万里地区が甲子園出場常連地区となることをめざし、高校野球を通して地域を盛り上げていきたいと思えますので、市民の皆さんの応援をよろしく願います。



地域振興・公共交通対
策課副課長（兼）甲子
園プロジェクト係係長
梶原 貴英

有田工業高校 甲子園1勝 ありがとう



『チーム甲子園』
おかもと たくずひろ
岡本和宏委員長

『甲子園1勝』おめでとうございいます。お見事でした。

初戦の大垣日大戦は、8回表2死・一・三塁から、仙波君が次打者桑原君の激励を受け、定石通り四死球後の1球目を左中間へ二塁打。そして9回裏2死、最終打者に古川投手がこの1球で試合を決めると

いう気迫で投じた『最後』の球は、この試合最速の148キロメートルの直球。この2つが有田工の強さを象徴していると思います。

2回戦では、春のセンバツ大会ベスト16の常葉菊川高を相手に、持ち前の粘りと意地で勝利にあと一步のところまで迫りましたが、残念ながら力およびませんでした。

今年の有田工は、佐賀県大会から絶体絶命のピンチの場面で日替わりのヒーローが登場し、最高のプレーを見せてくれました。それは、まさしく『心でつないだ』結果であり、植松監督の硬軟織り交ぜた指

導と、毎日の厳しい練習とともに乗り越えて育まれた選手との信頼関係によるものと確信しています。

野球に限らず、伊西地区ですべてのスポーツを頑張っている小・中・高校生の皆さん、『ここぞというチャンス』や『絶体絶命のピンチ』で最高のプレーができる選手・チームをめざして鍛錬してください。

最後に、私たち甲子園プロジェクトが掲げた『伊西地区での甲子園1勝』を果たし、後輩たちに夢と希望を与えてくれた有田工、本当にお疲れさまでした。そしてありがとう。